

Target1 人・文化を育む 教育改革のさらなる前進！ 第2ステージへ



●教育分野のDXの推進

児童生徒が学校や家庭で学校が作成した問題をオンライン上で学習・アセスメントができる「文部科学省 CBTシステム」を導入します。

●人口減少・少子化を見据えた教育

これまでない速さで進行する人口減少・少子化に対応するため「学校教育・保育審議会」を設置し、これからの学校教育・保育のあり方を検討します。

●生涯学習・スポーツの推進

公民館を拠点にした学びを支援するとともに、新たにグラウンドゴルフ場を整備するなど、生涯スポーツを楽しめる環境の充実を図ります。

Target2 みんなで地域づくりを進める 持続可能な多機能型自治の形成



●協働のまちづくりの推進

「地区計画」の策定を支援するとともに、地域の将来像の実現を支援するため、「人と地域が輝く未来共創交付金制度」を新たに創設します。

●ふるさと納税の推進

ふるさと納税寄付金は、利便性の向上や返礼品の充実、手続きの効率化を図るとともに、本市の魅力を発信するシテプロモーションと捉え、交流人口や関係人口の拡大につなげます。

●デジタル化の推進

デジタル技術を活用し、効率的な事務事業の実施を推進し、地域課題を踏まえた施策の推進を図ります。

●地籍調査事業の完了

昭和55年度から開始した地籍調査事業は、本年度に事業完了となることから、調査の成果を生かして土地取引の円滑化、行政運営の効率化に生かします。

Target3 暮らしをともに支えあう 住み慣れた場所で安心して暮らせるまちづくり



●妊娠期からの切れ目のない包括的支援

子育て支援の新たな拠点となる「子育て世代包括支援センター」を開設し、母子保健事業の充実を図るとともに、オンライン相談や母子手帳アプリの利用を促進することで、育児不安の解消や虐待予防などに取り組みます。

●住み慣れた地域で暮らし続けるように

「いきいき百歳体操通いの場」に理学療法士などの専門職からひとりひとりに合わせた助言を行いより一層の介護予防の推進を図ります。

●子どものインフルエンザ予防接種助成事業

新型コロナウイルス感染症との同時流行を避けるため、本年度も引き続き生後6カ月から中学3年生まで接種費用の助成を行います。

令和4年度 施政方針 主要事業紹介



2月17日、山田裕一市長が第447回白石市議会定例会で施政方針演説を行い、令和4年度の市政運営の基本的な考え方を明らかにしました。今月号では、その内容と本年度の主立った事業をお知らせします。

ウィズコロナ下での社会経済活動の継続
新しい時代のまちづくりに積極果敢にチャレンジ

全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、本市においても市民の健康や生活、地域経済活動など、あらゆる面において甚大な影響を及ぼしています。

こうした事態に対処するため、本市では「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用して、「市民生活への支援」「雇用の維持と事業の継続」「感染拡大防止」を柱とした支援策に取り組んできました。昨年4月に一般向けに開始したワクチン接種事業では9割を超える市民の皆さんに接種をしていただき、3回目のワクチン接種については、当初の予定を前倒しして、2月から「集団接種」を開始しているところです。市民の皆さんの暮らしと経済における新型コロナウイルス

イルス感染症の影響を最小限に食い止められるよう、白石市医師会をはじめ関係機関と連携し、引き続き感染症の拡大防止とウィズコロナ下での社会経済活動の継続などに取り組んでいきます。

また、令和4年度は、「第6次白石市総合計画」の2年目となります。引き続き本市の目指す将来像「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまちしろいし」の実現のため、市民一人一人がその個性や能力を発揮しながら、地域づくりの担い手として活躍するとともに、新たな視点でさまざまな地域資源や魅力を発見し、育て、高め合うことで、新しい価値を創造し、まちへの誇りと愛着を持つて暮らしていくことができ

るまちを目指します。

さらに、地域共生社会の実現に向けて、市民一人一人の暮らしや生きがい、地域をも創っていくことを目指したまちづくりを推進します。加えて、「白石市まち・ひと・しごと創生『第2期総合戦略』」に基づき、「第6次白石市総合計画」との整合性を図りながら地方創生をさらに深化させ、本市の目指す将来像を実現するための施策を推進します。

人口減少や少子高齢化などまちづくりを取り巻く環境は大きく変化していますが、市政課題を先送りすることなく、本市がこれからも持続可能なまちであり続けるために、市民の皆さんと力を合わせて、新しい時代のまちづくりに積極果敢にチャレンジしてまいります。